

後者は、資源として再生できないものを廃棄する際に熱に変えて、その熱を利用するシステムです。しかし、ここでは、熱をつくるために、燃やさなければなりません。

また、燃やす際には、人体に影響があると考えられているダイオキシンが発生します。

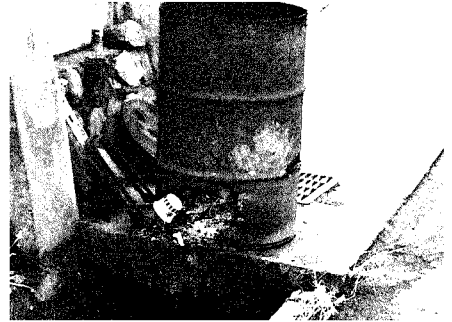
ダイオキシンは、ポリ塩化ビニール（現在は生産中止）などの塩

市民各位

このままでいいの？
これからのことを考えなければ。子どもたちのためにも・・・

素源を燃やすときに発生するといふことや、特に焼却温度が低い場合に発生量が増加することがわかってきています。

市内においては、簡易小型焼却炉の設置が多く見受けられ、その多くは河川沿いにあるのが現状です。焼却炉で燃えた後の灰は、ダイオキシンを含んでいる可能性があります。灰を河川や側溝に投棄する



多く見受けられる簡易小型焼却炉



あとをたたない不法投棄

ことは、生活環境にとって深刻なダメージを与えることになりかねません。ぜひ、リサイクルできない家庭のごみは、ごみステーションに出すようにし、灰を河川などに流さないようにしましょう。

次に「資源ごみ分別収集」の利用です。集団で回収することによってその効果はあがります。リサイクル循環型社会を確立するためにも、資源ごみ分別収集にご協力をお願いします。

その他のごみについては、適正

に処分するといったところですが、市内においても以前程ではありませんが不法投棄があつとをたちません。

わたしたちにできること

私たちの身の回りではその他にも様々な環境問題があります。騒音・振動・悪臭、水質汚濁、地下水や土壌の汚染などです。

それぞれの問題は生活と微妙に関連しており、それらが原因で、野生生物種のなかには、絶滅のおそれのある種がでてきています。ふだんから自然とふれあうことも環境に対する意識の向上につながると思います。

日常生活のなかでは、再生品を利用することや、できるだけごみになるものを買わない、過剰包装を断る、冷暖房を適温で使う、自動車やバスを利用する、自家用車より電車やバスを利用する、ごみは適正に処分する、などがあげられます。

未来に向けて、より良い生活環境であるためには、皆さんのご協力が必要なのです。

さあ、まずはできることから始めましょう。

問合せ先 保健環境課 環境係

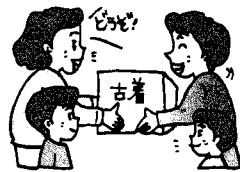
ごみ減量のための リサイクルの心得10カ条



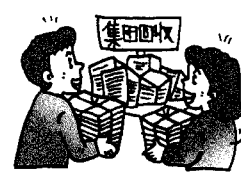
混ぜればごみ、分ければ資源。リサイクルは、徹底的な分別が大原則です。



過剰包装、使い捨て商品はごみのもとです。



捨てる前に考える。他のだれかが使うだろう、他の何かに使えるだろうなど。



集団回収に協力を。



分別排出は、回収者の気持ちになって、マナーを守りましょう。



ごみとして出すときも、分別を忘れずに。



使えるものは最後まで使いきりましょう。



再商品化されたものや、エコマークのついた商品を使うようにしましょう。



自分ひとりくらい問題ないという心に問題があるのです。



「もったいない」という気持ちを忘れず、ものを大切にしましょう。